トゲクリガニ *Telmessus acutidens*

陸奥湾海域

地方名：はなみがに、さくらがに

生態

①寿　命：不明
②成　熟：甲長 50mm 以上
③産卵期：9 月～12 月。抱卵したメスは水深の浅い藻場や小砂利場に分布し、砂等に潜ってあまり移動しないので、ほとんど漁獲されない。オスはメスと交尾すると生殖孔に交尾栓を植え付けて、他のオスが交尾できないように蓋をする。
④分　布：冷水性のカニで太平洋側では北海道南部から東京湾、日本海ではサハリン南部から朝鮮半島南部。
⑤生　態：12 月から翌 3 月頃にふ化する。その後、脱皮と変態を繰り返し、2 月から 5 月にかけて親ガニとほぼ同じ形となり、底生生活に移行する。ムラサキイガイ等の二枚貝を捕食するため、他県では麻痺性貝毒の発生が見られる。
⑥成　長：メスオス共に満 1 歳で甲長約 50mm。メスは満 2 歳で甲長約 60mm、満 3 歳で甲長約 70mm。オスは満 2 歳で甲長約 69mm、満 3 歳で甲長約 94mm。

主な漁業

篭、刺し網によって周年漁獲される。「さくらがに」、「はなみがに」と呼ばれるように漁獲のピークは 4 月～5 月。

漁獲の動向と水準

2007 年以降の陸奥湾海域の主要 9 港における漁獲量は、2007 年～2015 年に 30 トン前後で推移した後、2016 年の低水準を経て 2017 年以降は増加を続け、2021 年に過去最高の 121 トンを記録した。その後は減少傾向となり、2025 年の主要 15 漁港における漁獲量は 32 トンであった。

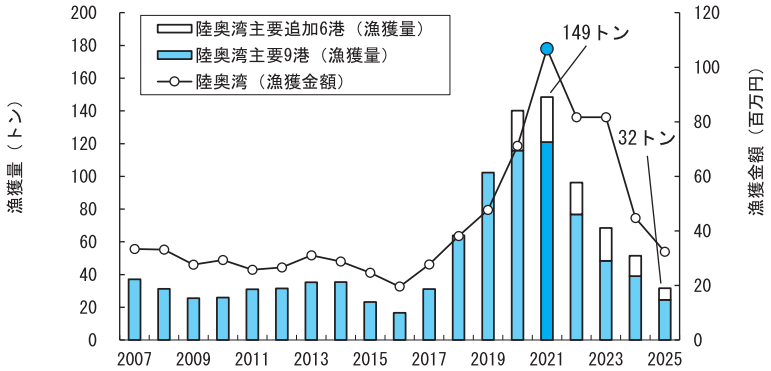

図　青森県陸奥湾海域主要漁協におけるトゲクリガニの漁獲量及び漁獲金額の推移（水総研調べ、2007～2019 年は主要 9 港、2020 年以降は主要 15 港）

2025 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

2017 年以降の漁獲量増加の要因として、陸奥湾東湾における 2015 年、2016 年の稚ガニの大量加入、2018 年初期の好適餌料環境、また雄の大型化が挙げられている（野呂, 2021. 水と漁. 第 37 号.）。2022 年以降の漁獲量は依然として高水準であったものの、直近数年間は稚ガニの大量加入が生じておらず減少に転じたと考えられた。

資源を上手に利用するために

○青森県における自主的管理措置等
（むつ市川内地区、外ヶ浜町蟹田地区）
・抱卵ガニ、水ガニ、小型個体（甲長雄 7cm 未満、雌 6cm 未満）の再放流などを実施している。
☆上記の取組を継続することが必要である。